

73期生のみなさん、こんにちは。国語科の江西です。前回から一週間経ちましたが、充実した日々を過ごしていますか？ もう三月も半ばを過ぎました。まだ全然勉強／宿題をしていないという人は、少し焦ったほうが良いと思います。部活もできないのに、勉強面での成長もないのでは、折角の長期休みが勿体ないですよ！

今回は漢文1〜5の書き下し／現代語訳を載せますが、少しだけ漢文のアドバイスを。

・英語とほぼ同じ語順なので、文の構造を意識して、英語と違って読んでみる

↓「主語（省略される場合も）＋否定語（あれば）＋動詞＋目的語（あれば）」といった語順は英語と同じですよ。もちろん、「而・若・如」など、用法がいくつもある字は覚えなさいといけません。[「pay」が動詞か名詞かは見抜けるでしょうか？ それと同じです。自信のない人は、送り仮名と返り点のついた文章で、構造を意識して読むことから始めましょう。慣れている人は、白文のほうが良いトレーニングになります。具体的には、主語・動詞・否定語（不・非・無）・置き字（特に「而・於／于／乎」）などを意識し、マーカーで色分けする等工夫して楽しみながら読むと良いと思います。繰り返ししていくうちにパターンが見えてくるとしめたものです！

・基本句形をマスターする

↓疑問・反語・否定（部分否定・全否定・二重否定・禁止 等）・使役・受身・限定・抑揚等が大切なのは言うまでもありませんが、僕は、「仮定」をしつかりマスターしてほしいと思います。「精説」90頁「若・如・苟・雖・縱」。特に、傍線問題で白文として出たときに、これを見抜けるか否かで文章理解の難度が変わると思います。

・「精説 漢文」の188〜201頁の常識語等がある程度把握しておく

↓当たり前ですが、漢文の世界の「常識」を知っていることが理解の助けとなります。数学や英語の勉強に疲れたときなどの隙間時間に眺めるだけでも効果があると思います。

あとは、前回に述べた、古文の文章を読むトレーニング同様、「プログレス／グレートラーニング」の本文と解説書を使って多くの文章を読むことです。文系の人は、余裕があれば、受験可能性のある大学・学部・学科の二次試験に漢文があるかどうかを見ておきましょう。出る場合は、過去問を三年分チェックして、ある程度の傾向を知っておきましょう。それが君の解くべき漢文問題の最高難度のものとなります。自己の現状と到達すべき最高峰を知っておくことは、学習計画を立てる上でも重要なことだと思います。逆に、漢文は共通テストのみという人は、センター試験の漢文で、コンスタントに40点以上（できれば満点）取れるように頑張りましょう。全科目中最も少ない努力で点数が取れるのが漢文です。その傾向は共通テストになっても変わらなと思います。取りこぼさないようにしましょう。

また雑文を書いたのですが、長くなったので現代語訳の後に移動させました。暇つぶしにどうぞ。

1

〈書き下し文〉

王太尉 萊公を薦めて相と為す。萊公 数太尉を上の前に短り、而して太尉専ら其の長を称す。上一日太尉に謂ひて曰はく、「卿 其の美を称すと雖も、彼専ら卿の悪を談ず。」と。太尉曰はく、「理 固より当に然るべし。臣 相位に在ること久しく、政事の闕失必ず多からん。準 陛下に対して隠す所無く、益其の忠直なるを見る。此れ臣が準を重んずる所以なり。」と。上 是れに由りて益太尉を賢なりとす。

〈口語訳〉

王太尉は萊公を推薦して宰相にした。（それなのに）萊公はたびたび天子の前で王太尉を非難し、そして王太尉はひたすら萊公の長所を称賛した。天子はある日王太尉に告げて言うには、「あなたは萊公の美点を賞めているが、萊公は気ままにあなたの悪口を話す。」と。太尉が言うには、「道理はもともと当然そうであるべきです。私めは宰相の地位に永くいて、政事の過失や欠点は必ず多いことでしょう。萊公は陛下に対して（私の欠点を）隠すことなく、（話すのは陛下に対する）さらなる忠実で正直な心の表れです。これが私めが萊公を重んじる理由です。」と。天子はこれによって王太尉をますます賢者とし（て認め）た。

2

〈書き下し文〉

客、燕王に不死の道を為むるを教ふる者有り。王人をして之を学ばしむ。学ばしむる所の者、未だ学ぶに及ばずして客死す。王大いに怒りて之を誅む。王は客の己を欺くを知らずして、学ぶ者の晩きを誅む。夫れ然らざるの物を信じて、罪無きの臣を誅むるは、察せざるの患ひなり。且つ人の急とする所は、其の身に如くは無し。自ら其の身をして死無からしむること能はずして、安くんぞ能く王をして長生せしめんや。

〈口語訳〉

燕王に不死の道の修行を教えようという食客がいた。王は人に学ばせようとした。その学ばせた者がまだ学びとらないうちに、食客が死んでしまった。王はひどく怒ってその者を責めた。王は食客が自分をだましたのだということを知らないで、学ぶ者が遅かったことを責めたのである。そもそもありえないことを信じて、(そのため) 罪もない臣下を責めるといのは、事実をよく観察しないための害である。その上、人が何よりも大切にしているものは、自分の身体(≡生命)に及ぶものはない。われとわが身を不死にすることができないでいて、どうして王を長生きさせることができようか、いやできないはずだ。

3

〈書き下し文〉

子路 孔子に問ひて曰はく、「賢君 国を治むるに、先んずる所の者は何ぞ。」と。孔子 曰はく、「賢を尊びて不肖を賤しむに在り。」と。子路 曰はく、「由聞く、『晋の中行氏は賢を尊びて不肖を賤しめり。』と。其の亡びたるは何ぞや。」と。孔子 曰はく、「中行氏は賢を尊ぶも用ふる能はず、不肖を賤しむも去る能はず。賢者は其の用ひられざるを知りて之を怨み、不肖者は其の必ず己の賤しまるるを知りて之を讎とす。怨讎 国に並び存して、隣敵 兵を郊に構ふ。中行氏 亡ぶること無からんと欲すと雖も、豈に得可けんや。」と。

〈口語訳〉

子路が孔子に質問して言うには、「賢君が国を治めるうえで、第一に行うことは何でしょうか。」と。孔子が(答えて)言うには、「賢者を尊重して愚か者を不適格として区別する点にある。」と。子路が(納得できずに)言うには、「私は(次のように)聞いています、『晋の中行氏は賢者を尊重して愚か者を不適格として区別した。』と。(それなのに) 中行氏が滅亡したのはなぜでしょうか。」と。孔子が(説明して)言うには、「中行氏は賢者を尊重したけれども登用することができなかったし、愚か者を不適格としたが退けることができなかった。(その結果) 賢者は自分が登用されないことを知って(君主を) 怨むようになり、愚か者は自分が必ず不適格者とされるのを知って(君主を) 敵視するようになった。(こうして) 怨みと敵視が国内に同時に存在することで、(やがて) 隣の敵国がいくさをするようになった。(だから) 中行氏が滅亡しないことを願ったとしても、どうしてもうまくできるだろうか、いやできない。」と。

4

〈書き下し文〉

晋の車胤字は武子、南平の人なり。恭勤にして倦まず、博覧多通なり。家貧にして常には油を得ず。夏月には則ち練囊に数十の萤火を盛り、以て書を照らし、夜を以て日に繼ぐ。桓温荊州に在り、辟して従事と為す。義理を弁識するを以て、深く之を重んず。稍く征西の長史に遷り、遂に朝廷に顕る。時に武子と呉隱之と、寒素博学を以て名を世に知らる。又賞会に善し。当時盛坐有る毎に、武子在らざれば、皆云はく、「車公無ければ樂しまず。」と。

〈口語訳〉

晋の車胤は字は武子といい、南平の人である。礼儀正しく慎み深い性格で怠らず、博く書物を読み様々な物事に精通していた。家が貧乏でいつも灯油を手に入れられるとは限らなかった。夏には柔らかい絹の袋に数十匹の螢を入れ、その灯りで書物を照らして読み、絶え間なく勉強した。(その後)桓温が荊州(の長官の地位)にいて、(武子を)召してその属官にした。(武子は)物事の道理をわきまえていることで、(桓温は)武子を大いに重んじた。次第に出世して征西將軍の書記長となり、とうとう朝廷でその名を知られるようになった。当時武子は、呉隱之と一緒に、貧苦の中で勉強して(一説には、質素で飾り気がなく)博学になったことでその名を世間に知られていた。さらに(武子は)宴会においても好まれていた。当時盛大な宴会があるたびに、武子がいないと、全員が言うには、「車公(＝武子)がいらつしやらないと楽しくない。」と。

5

〈書き下し文〉

太公安部川を引き城中に入れて、以て園池に注がんと欲し、吏に下して之を議せしむ。吏水道を經理し、表するに小榜を以てす。偶太公放鷹より還り、その道の一小寺に当たるを見て悦ばず。従臣或いは説を献じて曰はく、「宜しく地を他処に賜ひ、以て其の寺を移し而る後役を起すべし。」と。太公曰はく、「否否。仮し此の役をして国の為民の為にして相謀らしめば、大寺巨刹と雖も、亦之を移さざるを得ず。今日の拳は、特に老夫が一時の娯樂の計のみ。娯樂の計にして、古来置く所の仏寺を毀つは、吾が欲せざる所なり。」と。遂に命じて其の役を止めしむ。

〈口語訳〉

徳川家康公が、安部川(の水)を駿府城に引き入れて、庭園の池に注ぎ入れようとし、役人に命じてこのことを検討させた。役人は川の流れを調査して、目印として小さな杭を立てておいた。偶然家康公が鷹狩りから帰って来て、(目印のある)道筋にある小さな寺にぶつかっているのを見てこれは良くないと思った。(その言葉聞いた)家臣のある者が提案を申し上げるには、「土地をよそにお与えになって、そしてその寺を移した後で工事を始めるのがよろしい」と。家康公がおっしゃるには、「いやいや。

もしこの工事を国のため民衆のために計画させたならば、どれほど大きな古い寺であっても、移さないわけにはいかない。今回の事業は、老いた私のただ一時の娯樂の計画であるだけだ。娯樂の計画で、古くから置かれている仏寺を壊すのは、私の望まないことである。」と。そのまま命じてこの工事を止めさせた。

…と、勉強のことばかり書くことに飽きてしまったので、やはり少し雑談を、と言いながら長くなりそうです。僕も含めた73期担任団からの推薦図書を紹介は読んでくれましたか？ 本との出会いは、友人との出会いと同じで、タイミング次第で人生が大きく変わる可能性を秘めています。この紹介で、皆さんに良い「縁」（「えにし」と読んでくれて構いません）があればと思います。というわけで、今回は、僕の読書体験の話を書きます。もう30年以上前になりますが、高津の一年生の時に（！）初めて本をジャケ買い（ジャケット買い。内容を確かめずに、表紙だけを見て買うこと）をしました。田中芳樹（『銀河英雄伝説』が代表作）の「アルスラーン戦記 征馬孤影」（角川文庫 ※現在はレーベルがカップパノベルス／光文社文庫に変わっています）です。天野喜孝（ファイナルファンタジーのキャラクターデザイナーを手掛ける世界的に有名なイラストレーター）の表紙絵に一目惚れしてしまい、十分ほど迷った挙句（ジャケ買いという言葉も知らなかった初心な高校生でした）、意を決して購入し、家で読んで愕然としました。何と、シリーズものの第五巻だったのです（笑）。当時から「ドラゴンクエスト」や「ファイナルファンタジー」のような剣と魔法の世界（ヒロイックファンタジーというジャンルも言葉も知りませんでした）は好きだったので、タイトルとその表紙から「そういう話」であると判断したまではよかったです。その天野喜孝の絵が衝撃的過ぎて、あらずじを讀んで確かめることもできなかったのです。それでも何度か読むうちにストーリーを理解し、改めて一〜四巻を読み、完全にハマってしまいました。中世ペルシャをモデルとした架空の世界が舞台です。王太子アルスラーンの祖国パルスが隣国ルシタニアに攻め込まれる場面から物語は始まります。個性的なキャラクター、ちよつと毒気とユーモアのある会話、壮大なストーリー、そして天野喜孝の挿絵と魅力満載の本作は、推薦図書にも挙げようかと思つた作品なのですが、一つ難点があるのです。それは、途中から絶望的に面白くなくなる、ということなのです（笑）。本作は二部構成で、一〜七巻の第一部は文句なしに面白いです！ 読むのなら七巻まで読んで、あとはきっぱり読まない、というのが精神衛生上一番良いと思います。田中芳樹は好みにムラのある作家で、自分の書きたい話は筆が乗るのか良作を量産できるのですが、飽きると続きを書かずに放置する、という悪癖があります（笑）。ある時は中国歴史ものであったり、ある時はミステリであったり。そして、本作では第九巻が出てから第十巻が出るまでに七年もかかり（！）、さらにその七年後に出た第十一巻からレーベルが変わり、そこからも漫画化／アニメ化（荒川弘で現在も連載中／アニメ化はその荒川弘の話を元に四年前くらいにされました。小説の第一〜六巻くらいの話です）が決まり無理やり完結まで書いている感じがしていました。そして、完全に情熱を失ったジャンルのプロット（作品の設計図のようなもの）を辿るだけのような無味乾燥な文章（恐らく年を取ったことによる劣化もあるでしょう）に、「あの面白かった話は何処へ…」と寂しい思いをしながら読むだけでも苦痛なのですが、更なる悲劇が待ち受けていました。田中芳樹にはもう一つ悪癖があり、それは、物語の終盤で主要人物をバンバン死なせていく、というもので、それで彼に付けられたあだ名が「皆殺しの田中」（笑）。ある程度は覚悟していたのですが、三十年来愛着のあつた主要人物たちが、ラストに向けて帳尻を合わせるようにコンスタントに大した意味も感じられない死に方（こういうのを犬死にというのでしょうか）をしていくのを絶望しながら読むことの辛さよ。しかも物語の結末の酷さよといったら！ 俺の三十年を返せ!!（※一人称の変化は「山月記」参照）……まあ、最後まで書かずに放置している作品が多々ある中で、完結させてくれただけでも良かったというべきなのでしょう。もう一度言いますが、第一部（一〜七巻）は本当に面白いんです！ 天野喜孝の絵で読みたい人は言ってくれたら貸してあげます。もし、僕と同じ絶望感を味わってみたいという物好きな人がいたら、最後まで読んでみてください。そして愚痴を語り合いましゅう（笑）。とにかく、十五歳の時の偶然的な出会いが、僕を三十年以上も楽しませてくれただけでなく、「銀河英雄伝説」などの作品も読み、天野喜孝の個展も見に行き、怖いもの見たさで荒川弘作画のアニメを見て別の絶望を味わい（笑）、と人生のスパイスとして良くも悪くも様々な影響を及ぼしていると思うと感慨深いものがあります。我々の推薦する本から皆さんにもそういった広がりが出てくると面白いですよ。